

『橋に生きる顔』

（株）オリエンタルコンサルタンツ 関東支店道路保全部 技師長 渡辺英夫さん

橋に生きる顔

（株）オリエンタルコンサルタンツ

関東支店 道路保全部 技師長

渡辺 英夫さん

現在、高度推進室長を兼任する。多岐に渡る分野で、多くの技術を擁す同社にあって、技術を総合的に捉え、かつ分野ごとの技術力を強化することが狙いで、24年に新設された部署だ。特に保全分野での技術力の向上がこれまで以上に必要という。「インフラの保全はその重要性が言われながらも、予算がつかない状態が続きましたが、



本質を見極める

防災意識の高まりに加え、国土強靱化基本法の成立は大きな弾みになっていきます」という。保全分野の難しさの一つに、古い橋では、その竣工図書や補修履歴が不十分で、綿密な検討がしにくいことを挙げる。 「それに新設に比べて、保全分野は経験が浅く業務体系が整備されていない面があります。一方で、だからこそコンサルタントに対する期待も高くなる。「管理者とコンサルタント、そして施工者が三位一体で事業を進めることが重要です」。保全分野の可能性には期待するものの、その人材不足も指摘する。「保全の専門家になるには新設の設計をして『構造物を

見る目』を養うのが大事」と語る。新人時代、瀬戸大橋海峡部の櫃石島高架橋の設計や、明石海峡大橋の基礎・下部の安定計算に携わるなど、ビッグプロジェクトの中で鍛えられてきただけに、そう痛感するそうだ。 若い技術者に長大橋設計の機会が少なくなっている現状は、技術の継承という点で、不安を感じるといふ。 仕事をすることで、心掛けるのは本質を見極めること。「事業に求められることは何か、本質を掴んだ上で仕事をするのが重要です」。 昭和53年入社。日大理工学部 修士課程修了。東京都出身。60歳。 (川村淳一)